

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600338	事業の開始年月日	平成26年8月1日
		指定年月日	平成26年8月1日
法人名	ヒューマンライフケア(株)		
事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館		
所在地	(215-0005) 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘3-18-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年9月5日	評価結果 市町村受理日	令和8年1月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は住宅街の中にあり、緑も多く静かで過ごしやすい場所に建っています。通学路があり、朝は子供たちの声や散歩をしている犬の鳴き声などが聞こえ、日常を感じられる環境です。近くには野菜の直売所が2か所もあり、ご近所の方が来られているのをよく目にしています。最近、自治会のサークル活動を披露する場にもなっており、自治会の方との交流も増えてきました。また近隣中学の職場体験の場として、当施設を使ってもらっており、見学だけではなく、実際にお掃除やお洗濯を入居者様と一緒にしてもらったり、レクリエーションを楽しんでもらい、少しでも介護という仕事に興味を持ってもらいたい思いで受け入れを行っております。入居者様も孫を見るような目で見守って下さったり、一緒に楽しんでいらっしゃいます。入居者様が楽しんで、満足できるサービスを少しでも提供していけるように、日々取り組んでいます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年10月15日	評価機関 評価決定日	令和8年1月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<優れている点>
法人による人材育成に関する基本的な考え方が、確立されており、事業所では、それに基づいて職員のスキルアップのための研修や学習の場を体系的に整備しています。事業所は、職員全員の介護知識・技術水準・専門性を評価する法人認定の「ケアテクニカルマイスター・一つ星」を獲得しています。管理者は、ピンポイント的な専門的支援はもちろん大切であるが、俯瞰的な視点で支援をすることの重要性を常々伝えています。また、職員の言動のゆるみや職員間の情報共有の不足が、利用者への不適切なケアにつながることへの注意を日々喚起し、施設理念とする「安心して暮らすことができるよう、生活のパートナーとして支える」を目標にした支援の徹底に努めています。

<工夫点>
運営推進会議は、自治会会長・民生委員、地域包括支援センター職員や時には利用者家族の参加により定期的実施し、事業所の現状報告や地域の情報などを得ています。事業所の機能について理解を深めるため、毎回現状を真摯に報告しています。特にヒヤリハットの発生事案、発生誘因、およびそれに対する支援対応については、事細かに資料に記載し、事業所としての支援方針や支援内容を明らかにしています。会議資料は、家族にも送付しており、家族からは本人の心身の状態が把握できると評価を得ています。現在、地域交流の機会として、「ウクレレの会」や「歌の会」などのサークル活動の発表の場を提供しています。利用者が発表者と共に歌い、手拍子をするなど、全身で楽しさを味わえる取り組みを設けています。今後、地域密着型の事業所としてさらに幅広い活動を展開していくことを目指しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社・拠点の理念を、スタッフ全員が見れるところに掲示し、研修やミーティング、面談などで理念の共有を行っている。地域密着型としては、その方が住み慣れたところにある施設として、地域の方の受け入れを率先して行っている。	法人の理念をもとに「安心して暮らすことができるよう生活のパートナーとして支えています」を事業所理念として策定しています。ミーティングやケアカンファレンスで利用者その人を支える個々の取り組みが、理念に基づく支援かどうかについて話し合い、その運動性を計画的に確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の会員として入居者全員が生活をしており、今年度は、敬老の日のお祝いもいただけることになっている。 (去年まではなく、今年から行ってくれるようになりました)	今年度の敬老の日には、自治会からお祝いが届くなど地域との連携が図られています。また、「ウクレレの会」や「歌の会」の発表に場所を提供し、利用者が一緒に歌ったり、手拍子を取ったりと、全身で楽しさを味わえる活動を創出しています。職場体験では、生徒たちと掃除やレクリエーションを一緒に行うなど、地域の一員としての交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会のサークル活動の発表の場所として、利用してくれるようになり、ここがこういう場所だったことへの理解が深まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には包括支援センターのスタッフや自治会長さんに参加していただき、拠点のことはもちろんだが、近隣の方の情報や自治会のトピックスや包括で共有した方がよい内容などの報告をしてくれるため、運営の参考にしている。	運営推進会議は、グループホームの役割や機能の理解を深める機会とし、定期的開催し、事業所の現状などについて報告しています。特に、ヒヤリハットの発生事案、発生要因、支援対応を事細かに記載し、事業所の支援方針や支援内容について話し合いを行っています。また、地域からは連携や活用可能な情報を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の方が入居しているため、保護課との連絡などは適時に行っている。認定調査も適時に実施している。また、スタッフの家賃補助(条件あり)を川崎市から受けており、今年度より高齢者のプログラムなどに協力をお願いされているが、まだ活動はな	麻生区役所の保護課や高齢課とは、必要に応じて連携をとっています。認定更新には、区の担当者が来所し、利用者の状況やニーズなどについて報告しています。また、区役所主体の新しいプロジェクトに協力依頼があれば、体制を整え、対応ができる姿勢を示しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年4回の身体拘束廃止委員会の開催をし、年に数回の身体拘束などの法令研修を実施している。不適切なケアについても、毎月のミーティングで意見交換をしている。各スタッフの意識や知識などを会社からの自己チェックシートで実施している。行政からのチェックシートも実施している。	定期的に身体拘束廃止委員会を開催しています。基本的に職員全員が出席し、会議録は回覧と押印により全職員が内容を確認しています。法令研修は、ICTのアプリで個々に研修を受けています。また、法人や行政の自己チェックシートで自身の振り返りを行い、身体拘束による身体的・精神的な弊害などについて正しい理解を深めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についても、身体拘束廃止委員会と同様に年に4回の委員会を実施している。研修も拘束と同様に実施されている。スタッフ間で対応困難者の共有や良かったケア、ダメだったケアなどの情報交換などをし、孤立を防ぎ、ストレス軽減なども行っている	高齢者虐待防止委員会は、身体拘束委員会と同時に開催し、委員会の流れは同じとしています。法人が議題を提起し、それに対し職員間で意見交換を行い、議事録としてまとめ、法人、ブロック、エリアで共有しています。特に不適切ケアの発生防止については、職員の意識づけを徹底させています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般スタッフは関わるのが少ないため理解が乏しい。管理者やケアマネは情報を共有して、活用するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の相談から契約、解約については、管理者、ブロック長が行っている。できる限り対面で対応するように心がけている。不安や疑問がある際は、ご納得、不安の解決がされるまで十分に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の希望・要望は日々の関りにて聞き取りして、すぐに実施できるものに関しては早急に、あとは行事等で実施していくように努めている。ご家族様などからはメールやお電話にて意見や要望をいただくことがあり、運営に反映するようにしている。入居者への要望であればすぐに日常に取り入れるようにしている。	家族や利用者からの意見、要望は、ミーティングなどで話し合い、できる限り、迅速に対応しています。毎月のお便りや運営推進会議の議事録を送付し、意見や要望のある時は、メールや電話で受けています。最近では、現金を預からず、カード決済に変更されたため、それぞれの明細方法の要望に沿えるように反映しました。また、重要事項説明書に苦情に関する相談窓口を明記し、入居時に利用者および家族へ説明しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや面談などで意見を頂き、反映できることは速やかに実施している。	個人的な意見・要望は、個別面談で聞いています。また、全体的な課題や共有すべき事項は、ミーティングで意見交換を行い、必要に応じて支援内容や環境整備に反映させています。最近では、防災グッズの収納場所や防災倉庫について話し合いを行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの働き方は面談でしっかりと把握するようにし、できる限り沿うように努めている。就業態度などの観察を行い異変を感じるスタッフには声をかけるようにし、必要に応じて面談の実施を行っている。	年に2回、管理者・上長の面談で本人の思いを把握し、各職員の向上心や働きやすい職場環境づくりに努めています。半期ごとに作成する目標設定や人事評価シートでそれぞれが具体的にスキルアップできる就労環境を整備しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内資格の取得を推進し、個々のスキルアップを行っている。特定技能スタッフや、新人スタッフに対しては、指導スタッフを厳選し、個々の能力や性格などをしっかりと把握して、指導スタッフ間で情報共有をし、育成を行うようにしている。	法人の人材育成の一環として、事業所の全員が習得対象となる「認知症介護マイスター」「テクニカルマイスター」の一つ星から三つ星までの評価認定制度があります。当事業所は、現在一つ星を取得しています。この社内認定やスキルアップの度合いは、人事考課に反映され、職員の意欲向上につながっています。事業所は、職員の自己研鑽、自己啓発を推奨しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	なかなか実現できていない。系列拠点のヘルプなどで、交流をすることもありますが研修や交流などの機会は設けることが出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々の関りで信頼関係を築いている。スタッフにも入居者と関わることがとても重要だと指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設の見学や入居の問い合わせの時点から、行っていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントを大切にし、ご本人だけでなく、御家族様からのアセスメントを重要視して最善な支援を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築くように努めており、そのようになっていると思うが、常に努力を行っていく		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	関係を築くように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族様の面会のみにはせず、関わりのある方の面会なども実施している。お友達との外出や馴染みのある場所への外出も付き添いの方がいれば、可能となっている。	利用者は、行きつけの美容院や家族、友人と自由に外出をしています。基本的に家族などが付き添いますが、必要に応じて職員が同行する場合があります。孫の結婚式に職員が付き添い、同席した例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で関りが持てるように支援し、逆にトラブルが起こる場合は、距離を取るなどの対応を必要に応じて行っている。席替えなどを定期的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りから、希望や要望などを聞くように努めている。難しい方はご家族と話をしたり、ちょっとした変化から汲み取るように努めている。	家族などに聞き取った入居前のアセスメントを基に、日々の生活の中でも思いを聞き取っています。幻視症状に伴う行動が見られる利用者が、オセロゲームなど集中できる活動を提供することで落ち着きが得られることを把握し、個別に支援しています。利用者の態度や表情のわずかな変化を見逃さないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族やご本人から聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居時のアセスメントで、ご本人やご家族から聞き取りし把握するようにしている。入居後も日々の関りから、更新するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月一人一人の課題や状況の共有をスタッフ間で行い、モニタリング時は、御家族様からの意見などもふまえて、介護計画に反映させている。	ケアプランは、本人、家族などの意見を反映し作成しています。概ね、長期1年、短期6ヶ月の目標設定にしています。毎月、利用者全員のケアカンファレンスを行い、課題などを共有しています。また、3ヶ月に1度モニタリングを行い、実施状況や今後の対応などを評価して、ケアプランを見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録、申し送り、ヒヤリハットなどの記録を参考にし、スタッフ間で毎月情報共有を行っている。見直しがあれば計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要なニーズに対して柔軟に取り組んでいるつもりだが、必要な時に組み立てているかは難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要なニーズに対して柔軟に取り組んでいるつもりだが、必要な時に組み立てているかは難しい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の往診のほかに、何か異変があれば必要に応じて臨時に対応してもらっている。	以前からのかかりつけ医への受診も可能ですが、現在は協力医療機関の内科医を全員が定期的に受診しています。また、歯科医も定期的に訪問しています。毎週、看護師は健康観察のため、歯科衛生師は口腔ケアのためにそれぞれ訪問しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受け、状況などの報告・共有などを行っている。不安な対応などにもアドバイスや医師の往診調整などの相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族様と連携を図り行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期の見通しが立った際は、御家族様やご本人と今後に対して十分な話し合いをし、事業所だけでなく医療機関との連携も図っていく。	契約時に家族などに「重度化対応及び看取りケアに関する指針」を説明し、「意思確認書」を得ています。医師が回復の見込みがないと診断した際は、医師の説明のもと、家族などに看取りに関する意思の再確認しています。看取り後に振り返りを行い職員のメンタルケアをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応の手順やマニュアルは、各フロアに掲示している。定期的の確認や見直しを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練をスタッフだけでなく、入居者も一緒に参加し、意識を高めている。	年2回、消防訓練を行い、水と食料、非常用トイレ、懐中電灯などを準備しています。土砂災害警戒区域のため、利用者も参加し、垂直避難をして備えています。また、BCP(事業継続計画)を作成し、自然災害対策や感染症蔓延防止の研修を行っています。今後は、地域の防災訓練に参加する意向です。	居間の一角に箱を数段積み上げ、災害備蓄品を保管しています。想定外の災害に向けて、夜勤など1人体制でも迅速に対応できるよう、保管庫の設置や保管場所の工夫が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の望みをできるだけ応えるように対応を心がけている。プライバシーの保護や人権擁護は虐待にも繋がるので、スタッフには研修などで起こりやすい事案などを話して対応に気をつけるよう伝えている。	職員は、接遇や認知症ケアの研修で学びを深め丁寧な対応を心がけています。プライバシー確保のため、夜間に居室を施錠している利用者が数名おり、利用者の安心感や防犯への配慮が確認できます。運営規定の個人情報保護の条項に個人情報を「目的外に使用しない」旨を明示し、ホームページなどに写真を掲載する際は、家族に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、自己決定が可能な場合は行ってもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人が好きな時間を過ごせるように対応を心掛けている。居室で過ごしたいときは時々様子を見ながら過ごしてもらい、テレビが好きな人には、テレビを見やすい場所へ誘導したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で衣類などを選べる方には選んでもらうが、季節などの配慮が出来ていない時は、スタッフが介入している。ご家族様からのプレゼントなども着てもらえるように声をかけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人に合わせた食事形態での提供を行うようにし、アレルギーや嫌いな食物に対しても代替えをして対応している	栄養管理された専門業者の献立に基づいた食事を提供しています。利用者個々のアレルギーや嫌いな乳製品・肉などは、代替食を提供し対応しています。利用者は、下膳や食器拭きに関わっています。外出に出かけられない人が増えているため、月に1度、利用者が好む寿司などの特別食を提供し、食事を楽めるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量は初めは一定の量で提供するが、摂取量や既往歴、体調などの観察をして、医師やご家族と連携を図って量の調整を行うようにしている。水分量も適切な量の提供を行っていく。味の変化も行って苦痛なく摂取できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医や衛生士の下、必要な方には介助や仕上げを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	デリケートな支援のため、自立支援を促しているが、衛生面や安全の確保が難しい方には、個々にあった方法を検討し対応している	利用者個々の排泄パターンを把握し、落ち着かない様子などを捉えて声掛けをし、トイレでの排泄につなげています。また、利用者の状態に応じて4種のパッドを準備し、排泄の失敗が減少した場合には、パッドの大きさを変えるなどの工夫をして支援し、トイレでの排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療機関や訪問看護と相談をして行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分などで日程の変更を行ったり、同性介助の希望を聞いて対応したり、入浴剤などを使いたい方にはご家族に用意をしてもらって使用したりして対応している。入浴拒否の方に対しては、声掛けなどを工夫したり、清拭などで対応したりしている。	入浴を拒否する利用者に対して強要はせず、翌日に変更したり声掛けの工夫を施すなどにより入浴を促しています。浴槽から立ち上がることが困難になった場合は、安全を考慮し見極めて、シャワー浴に変更するなどの検討をしています。利用者の好みのシャンプーや入浴剤で香りを楽しむなど、くつろいだ気分の中で入浴できるよう個別支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人に合わせた照明や室温、寝具など観察を行い対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は、生命に直結する支援のため、確実に慎重に対応している。内服ができる方でも、手渡し、落薬、漏れなどがないか飲み込み確認まで行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いを希望される方、個別での運動を希望される方など、様々な楽しみや役割を提供するようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外部受診などの支援は行っているが、日常の買い物などは数ヶ月に一回程度対応できるかどうか。ご家族やお友達に支援を依頼して、対応してもらっている。	事業所では、よみうりランドや花見ドライブなどを計画し外出しています。家族と野球観戦や外食に出かけたり、友人の家への訪問など個別の社会的な活動を尊重しています。入浴を実施しない日は、必ず散歩をし日常的な活動量の維持を図っています。また、利用者の孫の結婚式に職員が同行した実績もあり個別支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の所持を現在は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	週1回、御家族と電話したり、電話をかけたいと希望がある方には、電話をかけたりして対応している。不穏症状が出ている方の落ち着いてもらう手段でかけさせてもらうこともある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は、入居者だけでなく、御家族や来訪者、スタッフも気持ちよく過ごせるよう整理整頓を心掛けている。	居間は、野球観戦を好む利用者が音量を気にすることなくテレビ観戦できる広さを確保しており、利用者が快適に過ごせる空間を確保しています。また、空調の風向きや温度管理に配慮しています。季節行事の写真の掲示やフラワーアレンジメントの展示、外構の桜の木などから季節を感じ取れる環境づくりを実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席替えを行ったり、テレビやソファの位置などを工夫して設置している。特定の人だけが利用するような設置はしないようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に関しては、ご本人やご家族の好みに合わせた空間作りを意識している。ただ、身体の状態に合わせた家具の配置も必要な方は、相談して進めるようにしている。	エアコン、カーテン、介護ベッド、洋ダンス、チェスト、照明器具といった生活に必要な設備は事業所が備え付けています。利用者は、テレビや写真、ぬいぐるみなどを自由に持ち込み、居室を個性化しています。好みのピンク色で寝具などを揃えて暖色の明るい雰囲気づくりを施すなど、利用者ごとにその人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分の居室が分かるように、表札を作ったりしている。歩行が難しい人の席の配置や車いすの方の動線などの配慮も行い、みんなが安全に暮らせるように工夫している。		

事業所名	ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社・拠点の理念を、スタッフ全員が見れるところに掲示し、研修やミーティング、面談などで理念の共有を行っている。地域密着型としては、その方が住み慣れたところにある施設として、地域の方の受け入れを率先して行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の会員として入居者全員が生活をしており、今年は、敬老の日のお祝いもいただけることになっている。 (去年まではなく、今年から行ってくれるようになりました)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会のサークル活動の発表の場所として、利用してくれるようになり、ここがこういう場所だったことへの理解が深まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には包括支援センターのスタッフや自治会長さんに参加していただき、拠点のことはもちろんだが、近隣の方の情報や自治会のトピックスや包括で共有した方がいい内容などの報告をしてくれるため、運営の参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方が入居しているため、保護課との連絡などは適時に行っている。認定調査も適時に実施している。また、スタッフの家賃補助（条件あり）を川崎市から受けており、今年度より高齢者のプログラムなどに協力をお願いされているが、まだ活動はなし。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	年4回の身体拘束廃止委員会の開催をし、年に数回の身体拘束などの法令研修を実施している。不適切なケアについても、毎月のミーティングで意見交換をしている。各スタッフの意識や知識などを会社からの自己チェックシートで実施している。行政からのチェックシートも実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についても、身体拘束廃止委員会と同様に年に4回の委員会を実施している。研修も拘束と同様に実施されている。スタッフ間で対応困難者の共有や良かったケア、ダメだったケアなどの情報交換などを行い、孤立を防ぎ、ストレス軽減なども行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般スタッフは関わる機会が少ないため理解が乏しい。管理者やケアマネは情報を共有して、活用するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の相談から契約、解約については、管理者、ブロック長が行っている。できる限り対面で対応するように心がけている。不安や疑問がある際は、ご納得、不安の解決がされるまで十分に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の希望・要望は日々の関りにて聞き取りして、すぐに実施できるものに関しては早急に、あとは行事等で実施していくように努めている。ご家族様などからはメールやお電話にて意見や要望をいただくことがあり、運営に反映するようにしている。入居者への要望であればすぐに日常に取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや面談などで意見を頂き、反映できることは速やかに実施している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの働き方は面談でしっかりと把握するようにし、できる限り沿うように努めている。就業態度などの観察を行い異変を感じるスタッフには声をかけるようにし、必要に応じて面談の実施を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内資格の取得を推進し、個々のスキルアップを行っている。特定技能スタッフや、新人スタッフに対しては、指導スタッフを厳選し、個々の能力や性格などをしっかりと把握して、指導スタッフ間で情報共有をし、育成を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	なかなか実現できていない。系列拠点のヘルプなどで、交流をすることもあがるが研修や交流などの機会は設けることが出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々の関りで信頼関係を築いている。スタッフにも入居者と関わることがとても重要だと指導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設の見学や入居の問い合わせの時点から、行っていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントを大切にし、ご本人だけでなく、御家族様からのアセスメントを重要視して最善な支援を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築くように努めており、そのようになっていると思うが、常に努力を行っていく		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	関係を築くように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族様の面会のみにはせず、関わりのある方の面会なども実施している。お友達との外出や馴染みのある場所への外出も付き添いの方がいれば、可能となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で関りが持てるように支援し、逆にトラブルが起こる場合は、距離を取るなどの対応を必要に応じて行っている。席替えなどを定期的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りから、希望や要望などを聞くように努めている。難しい方はご家族と話をしたり、ちょっとした変化から汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族やご本人から聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居時のアセスメントで、ご本人やご家族から聞き取りし把握するようにしている。入居後も日々の関りから、更新するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月一人一人の課題や状況の共有をスタッフ間で行い、モニタリング時は、御家族様からの意見などもふまえて、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録、申し送り、ヒヤリハットなどの記録を参考にし、スタッフ間で毎月情報共有を行っている。見直しがあれば計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要なニーズに対して柔軟に取り組んでいるつもりだが、必要な時に取り組んでいるかは難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要なニーズに対して柔軟に取り組んでいるつもりだが、必要な時に取り組んでいるかは難しい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の往診のほかに、何か異変があれば必要に応じて臨時に対応してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受け、状況などの報告・共有などを行っている。不安な対応などにもアドバイスや医師の往診調整などの相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族様と連携を図り行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期の見通しが立った際は、御家族様やご本人と今後に対して十分な話し合いをし、事業所だけでなく医療機関との連携も図っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応の手順やマニュアルは、各フロアーに掲示している。定期的に確認や見直しを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練をスタッフだけでなく、入居者も一緒に参加し、意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の望みをできるだけ応えるように対応を心がけている。プライバシーの保護や人権擁護は虐待にも繋がるので、スタッフには研修などで起こりやすい事案などを話して対応に気をつけるよう伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、自己決定が可能な場合は行ってもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人が好きな時間を過ごせるように対応を心掛けている。居室で過ごしたいときは時々様子を見ながら過ごしてもらい、テレビが好きな人には、テレビを見やすい場所へ誘導したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で衣類などを選べる方には選んでもらうが、季節などの配慮が出来ていない時は、スタッフが介入している。ご家族様からのプレゼントなども着てもらえるように声をかけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人に合わせた食事形態での提供を行うようにし、アレルギーや嫌いな食物に対しても代替えをして対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量は初めは一定の量で提供するが、摂取量や既往歴、体調などの観察をして、医師やご家族と連携を図って量の調整を行うようにしている。水分量も適切な量の提供を行っていく。味の変化も行って苦痛なく摂取できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医や衛生士の下、必要な方には介助や仕上げを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	デリケートな支援のため、自立支援を促しているが、衛生面や安全の確保が難しい方には、個々にあった方法を検討し対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療機関や訪問看護と相談をしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分で日程の変更を行ったり、同性介助の希望を聞いて対応したり、入浴剤などを使いたい方にはご家族に用意をしてもらって使用したりして対応している。入浴拒否の方に対しては、声掛けなどを工夫したり、清拭などで対応したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人に合わせた照明や室温、寝具など観察を行い対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は、生命に直結する支援のため、確実に慎重に対応している。内服ができる方でも、手渡し、落薬、漏れなどがないか飲み込み確認まで行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝いを希望される方、個別での運動を希望される方など、様々な楽しみや役割を提供するようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外部受診などの支援は行っているが、日常の買い物などは数ヶ月に一回程度対応できるかどうか。ご家族やお友達に支援を依頼して、対応してもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の所持を現在は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	週1回、御家族と電話したり、電話をかけたいと希望がある方には、電話をかけたりして対応している。不穏症状が出ている方の落ち着いてもらう手段でかけさせてもらうこともある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は、入居者だけでなく、御家族や来訪者、スタッフも気持ちよく過ごせるよう整理整頓を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席替えを行ったり、テレビやソファの位置などを工夫して設置している。特定の人だけが利用するような設置はしないようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に関しては、ご本人やご家族の好みに合わせた空間作りを意識している。ただ、身体の状態に合わせた家具の配置も必要な方は、相談して進めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分の居室が分かるように、表札を作ったりしている。歩行が難しい人の席の配置や車いすの方の動線などの配慮も行い、みんなが安全に暮らせるように工夫している。		

2025年度

事業所名ヒューマンライフケア麻生グループホーム2号館

作成日：令和 8年 1月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	災害備蓄品がリビングの一角に山積みになっている。備蓄倉庫の購入を検討しているが、運営状況の観点から現実になっていない。	災害時にスムーズな備蓄の出し入れなどができ、リビングの環境美化も行うことができる。	備蓄倉庫の購入を検討し、早急に対応する	10ヶ月